

川本鋼材株式会社

アナログなデータ入力作業をAI-OCRを活用して電子化 作業効率を改善し、生産性を向上させる

川本鋼材株式会社 実証結果【1/4】

企業概要

- 企業名
川本鋼材株式会社（愛知県あま市）
- 代表取締役社長
川本 哲也
- 概要
 - 特殊鋼鋼材の卸売、加工及び一般産業機械の販売
 - 自社加工工場を保有し、お客様の要望にあわせた特殊鋼の仕入れから在庫管理、加工、部品での供給までをワンストップかつタイムリーに供給できる体制を整えている
 - 特殊鋼を通して、お客様と日本の産業のさらなる発展に貢献していくことを変わらぬ使命とし、お客様とともに輝かしい未来の創造を目指している
 - 「挑戦って楽しい！」をモットーに皆で成長を続けている



社は「真善美」



真

私たちは、その時代の環境において「何が正しいか」を常に意識し、仕事を進めます。

善

私たちは、「より良い経営」を実現する為に努力を積み重ねてゆきます。

美

私たちは、相互啓発をする中で、一人一人の「人格向上」を目指します。

デジタル化推進の背景

取引先からの納品書は紙面が中心であり、入荷情報を基幹システムに反映させるには手作業での電子データ化が必須となっている



入力作業を「DX Suite」のAI-OCR機能を活用して自動化

- 入力時間の削減による作業効率の改善と生産性の向上
- 注文書や請求書などへの展開を期待できる汎用性の高さ

導入ツール



- 文字認識AIを用いた文字読み取りを実現する「DX Suite」を導入し、煩雑な紙情報のデータ化を目指した
- 様々な取引先から送られてくる納品書などの紙帳票を、適切な電子データへと変換させ、事務効率の向上を図った
- 既存システムとの連携も目指しており、これまでのアナログ作業を、一貫したデジタル化とすべく検討している

※ 「DX Suite」はAI inside 株式会社の登録商標です

主要加工先1社を対象に基幹システムへのデータ入力から確認までを簡素化させる

川本鋼材株式会社 実証結果【2/4】

モデル実証を通じて解決を目指した課題

入力作業の簡略化・効率化による作業量の軽減

入荷した製品情報を基幹システムへ反映させるため、納品書を用いてデータを手入力して登録

- 「DX Suite」を用いたAI-OCRによる高い精度の精査
- 入力作業削減の効果の確認

入荷情報の整合性

取引先へ加工を依頼した際、自社の倉庫から材料を出荷した場合には、出荷した際の材料情報との整合性を確認する必要がある

- 社内のお荷情報とどのように整合性の確認を行うか
- チェック時の視認性

課題解決に向けた取組内容

登録情報を分析し各項目に合わせた読み取り内容を設定

- 各項目の文字情報を分析し、より高い精度で読み取るように対応した

csvからExcel化への一貫デジタル化の取組検討

- 「DX Suite」からはcsv形式で読み取り結果のデータが吐き出される。より工数を削減するため、自動でcsvデータをインポートするように対応した

基幹システムから各情報をエクスポートし、照合を行う

受注、発注、出荷情報を基幹システムよりエクスポートし、読み取り結果との照合を行う。また、データの照合はマクロを用いて省力化する

- 照合の結果、実担当者の確認が必要になる箇所については、Excelのセルの配色・罫線設定・文字色を使って視認しやすい形とした
- 照合の結果はxlsx形式で基幹システムへインポートできる形とした
→チェックの後、編集作業なしで基幹システムへインポート

新入社員である加藤氏が中心となって「DX Suite」の導入を進め、デジタル化の推進へ取り組んだ

川本鋼材株式会社 実証結果【3/4】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

AI-OCRによる正確性の向上

読み込む箇所それぞれに設定を付け加え、さらに正確性を高めるため細部を専属SEと詳細を詰めていった

- 紙面情報はインクの濃淡、文字の解像度などに起因し100%の精度とはならず、最終的には人の目でチェック・修正することが求められた。一貫したデジタル化を目指す一方で、人の目でチェック等をするをネガティブに捉えず、データの信頼性を担保するステップとして、業務の一部とした

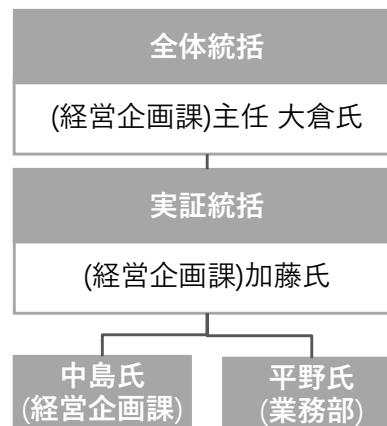
記号読み込みの正確性

- 商品情報を記載する場合に特定の特殊記号を用いる場合がある。今回の活動を注文書や見積書などに展開する場合においては、辞書登録など記号文字の取り扱いを検討する必要がある

Sample



実証体制



- 加藤氏が中心となり、全体統括の主任 大倉氏や中島氏、平野氏で支えながら「DX Suite」の導入を推進した
- 中心メンバーはデジタルの知見がある程度有しており、積極的な取り組みを実施した

取組の成果

手入力による転記作業がほぼ0になった

- 納品書の情報を自動電子化できたことで、手入力によるアナログ作業はほぼ0になった。読み取り精度によって、一部データの修正は必要であるが、ほとんどの情報は適切に電子化され、事務作業の効率化が進んだ

(作業時間：2.5時間→1.5時間ほどに短縮)

紙媒体情報を一貫したデジタル処理する準備が整いつつある

- csv形式で電子化されたデータをマクロを活用してExcel化し、社内システムへ取り込んでいる。現状は人の手を介して取り込みまで実施しているが、今後はRPA等の自動化/デジタル化ツールによる一貫処理を目指しており、その準備が整いつつある

読取精度の高さなど有用性について確認することができたため、 今後も広く展開していきたい

川本鋼材株式会社 実証結果【4/4】

今後の課題・目標

「DX Suite」を活用する取引先数の拡大

- 実証期間は、納入件数の多い取引先を選定して「DX Suite」を導入した。有用性については確認できたため、今後は他の取引先からの納品書や注文書・見積書についても広く展開したい
→ 最終的にデジタルツールを使った電子データ化に一本化
- AI-OCR導入を外部に発信し、企業価値を高める

読み取り能力の精度向上を検討

- 読み取りの精度をどこまで追求するかを検討する必要がある。現状は最終的に人の目でチェックすることを業務として取り入れているが、将来的には省人化出来ることが望ましい

社内業務のデジタル化推進

- アナログ的な事務業務をターゲットとしてデジタルツールを導入。前向きな結果を得られたため、今後も社内業務のデジタル化を推進したい

(デジタル化を推進する他企業への) 示唆



加藤氏

実業務を担当している平野から作業内容を聞き、大倉、中島とともにデジタル化を進めていきました。設定の難しい箇所はAI-OCR専属SEの方がオンラインで教えてください、正確な読取設定にすることができました。今後はさらに帳票の種類を増やしていきたいと考えているため、今回の設定を参考に作成していきたいと思います



平野氏

今までひとつひとつ手作業でExcel入力していた作業が「DX Suite」を導入することで手入力をする手間がなくなりました。正確に読み取りができているかの最終チェックは必要になりますが、修正することもほとんどありません。「DX Suite」を活用することで他の作業もデジタル化していくことができると考えられますので、今後も上手く活用しながら作業の負担を軽減させていけたらいいなと思います